

てんかん診療拠点病院を効果的に運用するための要件に関する検討
—コメディカル領域の整備が重要であるというエビデンスの創出を目指して—

研究分担者 原 稔枝 国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター 副看護師長

研究要旨

目的：てんかんの包括的治療が提唱され、その重要性が認識されたのは1978年バンクーバーで開催された第10回国際てんかんシンポジウムにおいてであった。てんかんの病態は多彩であり、容易に発作が抑制され合併症もなくごく普通の生活を送っている人がいる反面、難治な発作に加え様々な併存症を有し生活に困難を抱えている人もいる。発作が難治な患者や、併存症や心理社会的問題を解決するために、患者を中心とした多職種による包括的治療が重要となる。包括的治療の役割を担うてんかん診療拠点病院は、効果的に運用するための要件に関する検討として、コメディカル領域の整備が重要であるというエビデンスの創出が必要である。てんかん診療拠点病院で働く看護師の実態調査を行い、専門性の高い看護師を育成する必要性と教育システムについて検討する。

方法：①静岡てんかん・神経医療センターと西新潟中央病院の院内認定てんかん看護師へアンケートとインタビューにて実態調査を行う。②入院患者を対象に、看護師と多職種による包括的介入の事例検証を行う。③実態調査と事例検証の結果を踏まえ、てんかん診療拠点病院の看護師へてんかんケアの実態調査を行う。④てんかん看護教育プログラムモデルを作成する。

A. 研究目的

本研究班では、2015年に始まったてんかん診療拠点病院システムを質・数ともに更に充実させるために、拠点病院運営者を含む専門家会議を通じて問題点を明らかにし、てんかん診療拠点病院を軸としたてんかん医療を効果的に推進することを目的とした、「てんかん拠点病院運用ガイドライン」を作成することを目標としている。

てんかん診療拠点病院システムを効果的に運用するための要件に関する検討として、コメディカル領域の整備が重要であるというエビデンスの創出が必要である。てんかんの病態は多彩であり、てんかん診療・治療のみならず、併存症や心理社会的問題を解決するために、ライフステージに渡って患者を中心とした多職種による包括的治療が重要となる。静岡てんかん・神経医療センターと西新潟中央病院では、平成20年から「院内認定てんかん看護師

制度」を導入し、てんかん看護のスペシャリストの育成に力を注いでいる。海外での先行研究においても、てんかん専門看護師の役割の重要性や満足度の高さは証明されており、本邦においてもMOSES・famosesなどの患者教育や、情報とサポート提供など生活を拠点とした幅広い分野での活躍が期待されるだろう。

てんかん診療拠点病院において、コメディカル領域の整備の一つである看護師の役割に着目し、院内認定てんかん看護師の実態調査と看護介入の有用性を明らかにし、てんかん診療拠点病院に必要なてんかん看護の教育システムを検討する。

B. 研究方法

①静岡てんかん・神経医療センターと西新潟中央病院の院内認定てんかん看護師へアンケートとインタビューにて実態調査を行う。アンケート内容は、院内認定てんかん看護師資格取得の動機、院内外の

活動内容、必要な知識・技術、やりがい、不安要素、活動を継続していくうえで組織に要望する事項、これまでの看護介入への効果についてである。②入院患者を対象に、看護師と多職種による包括的介入の事例検証を行う。③実態調査と事例検証の結果を踏まえ、てんかん診療拠点病院の看護師へてんかんケアの実態調査を行う。④てんかん看護教育プログラムモデルを作成する。

C. 研究結果

調査中

D. 考察

現在、院内認定看護師は、患者へ包括的ケアを実践、且つ教育的役割を担っており、さらには院内外の看護師に向けて育成にも注力している。よって実際に求められる役割は、患者に寄り添えるてんかん看護のスペシャリストであり、生活の質を

向上するために専門的な知識や技術を有する必要がある。故に、さらにこのような教育を行う必要がある。

F.健康危険情報

なし

G.研究発表

1.論文発表

なし

2.学会発表

なし

H.知的財産権の出願・登録状況

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし